

令和7年度評議員会(機関運営に関するコメントおよび回答)

コメントおよび回答

(コメント)

多くの重要な研究を実施されていることを改めて認識し、敬服する限りです。ただ、昨年もお願いしましたように、研究課題をもっと少なくしてより詳しく、信頼できる研究結果が得られるようにすることも大切だと思いますので、第八期の研究課題を決定する際に熟考されますようよろしくお願いします。

(回答)

研究課題の数については、昨年度からご指摘いただいているところです。

当センターの中期計画は、県庁各課からのニーズを踏まえて内容を検討し、各関係行政部局で構成される企画運営会議での議論や、県議会への説明を経て策定するものであることから、各課の行政ニーズに可能な範囲で応えるような構成としています。

一方、幅広に取り組みすぎて、信用できる研究成果が得られなくなることをご懸念いただいていることは承知しておりますので、信用に足る成果が得られるよう、努めてまいります。

(コメント)

研究費の額の低さ、市民も認識が必要と感じます。

国の審議会に積極的に参加し、琵琶湖からの発信を高め、結果的に委託の獲得にもつなげたい。

研究機関、大学との連携にプラスし、テーマ毎にNGOとの連携も考慮していただきたいです。

(回答)

県の財政状況が厳しい中研究資金を確保するために、外部資金の獲得も積極的に進めているところですが、多くの県民の皆様にご理解頂くことが、予算確保につながると思いますので、引き続き、ホームページ、YouTubeチャンネル、センターニュースやびわ湖セミナー等で情報発信し、当センターの研究の周知に努めてまいります。

研究実績を着実に積み重ね、国の審議会をはじめとする、県政以外への貢献もできるよう、努めてまいります。

行政課題に対応するという研究テーマの性質上、共同研究や連携の相手方としては大学や研究機関、行政、地域の団体等が多くを占めますが、NGOとの連携についても可能性を模索してまいります。

(コメント)

(予算確保のため)県施策の中での優先順位が上がるよう研究内容成果を含めたPRの見せ方が非常に大事です。

琵琶湖環境部全体としての知見の共有、県民等への情報発信にご尽力いただきたいです。

(回答)

引き続き、ホームページ、YouTubeチャンネル、センターニュースやびわ湖セミナー等での情報発信を行うとともに、新たな発信の場の開拓も含めて取り組んでまいります。

また、研究成果を各部局の施策に活かしていくためにも、県庁内での知見の共有や成果の発信についても、積極的に取り組んでまいります。